

今年度の学習状況調査結果から、県の課題として捉えている設問を次の観点で選択しました。これらの設問について自校の結果を設定通過率や県平均通過率と比較するなどし、補足的な指導を行い改善を図ってください。

- 【選択の観点】・過去の調査で本県の課題ととらえ、継続して出題している類似問題
 ・次の学年以降での学習のために、年度内で定着させたい内容に関する問題
 ・新学習指導要領で求められている力に関する問題

■第1学年 国語

□通し番号(11)

◇評価規準

文や文章にはいろいろな構成があることを理解している。

◇県の状況

H21学習状況調査(小6)、H22全国調査(中3)A[4]の類似問題。H21は平均が62.1、H22は国の平均が43.3、県の平均が48.9であった。

◇指導上の留意事項

二つの内容を含んでいる文を提示して、主述の関係、修飾や被修飾の関係を捉え、接続語を補って二文にしたり、二文を一文にまとめたりして、文の構成の理解を深めるようにする。また、修正が必要な複文や重文を提示して、理由を明確にしながらか全体で話し合ったり書き直したりする活動を工夫し、日常の書く活動の際にも意識できるようにする。

□通し番号(18)

◇評価規準

様々な文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付けている。

◇県の状況

新学習指導要領で求められている「読書と情報活用」に関する問題であるが、通過率が低いと予想される。

◇指導上の留意事項

読む着眼点を明確にして、文や段落の構成等を手掛かりにして必要な部分に印を付けたら抜き書きしたりしながら読み進める活動や、内容を比較しながら図や表に整理したりする活動を設定して読み方を身に付けさせたい。

■第1学年 社会

□通し番号(10)

◇評価規準

身近な地域の地理的事象を基にして、適切に考察している。

◇県の状況

学習指導要領で重視されている地理的な

まとめ方に関する新聞。今年度の結果は設定通過率60.0に対して、平均が37.2である。

◇指導上の留意点

地域的特色を捉え地域の課題を考察するための調査項目例として、人口の推移、周辺の店舗、公共機関などの種類や分布、公共交通機関のルート、道路の幅などの視点をもたせたい。また、調査結果をまとめる際には、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述する学習活動を取り入れたい。

□通し番号(15)

◇評価規準

関心ある主題に関する年表や歴史地図などの資料を収集し、適切に選択して活用している。

◇県の状況

学習指導要領で重視されている歴史的事象の地理的条件に着目した資料の読み取りに関する新聞。今年度の結果は設定通過率60.0に対して、平均が32.0である。

◇指導上の留意点

地図を活用しながら、都や幕府がその地に置かれた理由を考察する学習を取り入れる。歴史の舞台という視点から地理的な事柄との関わりに配慮したり、地理的条件に着目して取り扱うなど、他の歴史的事象の学習においても地理的分野との関連を踏まえた工夫をしたい。

■第1学年 数学

□通し番号(5)

◇評価規準

分数係数の一元一次方程式を解くことができる。

◇県の状況

H21学習状況調査(4の類似問題(県平均は43.8)。今年度の結果は設定通過率60.0に対して、平均が50.1である。

◇指導上の留意事項

等式の性質と関連付けながら一元一次方程式の解法についての理解を図るとともに、

分配法則の適切な活用について習熟させる。

□通し番号(12) (小4～中1 共通問題)

◇評価規準

事象の中にある数量を文字を使って表現することができる。

◇県の状況

H21学習状況調査(14の類似問題(県平均は61.1))。今年度の結果は設定通過率70.0に対して、平均が23.7である。

◇指導上の留意事項

学び直しの機会をもち、具体的な場面と関連付けて分割分数と量分数との違いについての理解を深める。

■第1学年 理科

□通し番号(13)

◇評価規準

音の大小と振幅の関係、音の高低と振動数の関係を理解している。

◇県の状況

H20学習状況調査の類似問題。H20の平均は、46.5であった。今年度は、設定通過率が70.0に対して、平均は46.5であった。

◇指導上の留意事項

モノコード等を実際に操作させる活動を通して、音の高さや大きさを変える要因について、実感を伴って理解できるようにする。その際、振動数や振幅の大きさを模式図として記録させたり、「振動数」や「振幅」などの言葉を用いて事象を説明させたりする活動を取り入れるなど、結果を的確にとらえ自ら結論を導き出せるようにすることが必要である。

□通し番号(19)

◇評価規準

シダ植物とコケ植物の特徴を理解している。

◇県の状況

新学習指導要領に追加された内容である。今年度は、設定通過率が70.0に対して、平均は39.0であった。

◇指導上の留意事項

シダ植物やコケ植物のそれぞれの特徴を押さえることに加えて、「両方に共通する特徴」や「種子植物との違い」などの視点をもたせ、事象について総合的に考えさせることが必要である。

■第1学年 英語

□通し番号(15)

◇評価規準

文法に従って正しく書くことができる。(正確な筆記)

◇県の状況

第2学年との共通問題である。H21の県平均は33.4と大幅に低迷したが、今年度も設

定通過率60.0に対して、平均が37.6と低い通過率となった。

◇指導上の留意事項

文脈から対話の内容を判断し、適切な文法事項を活用しながら正確に表現できるよう指導すること。特に疑問文とその答え方や、be動詞と一般動詞の使い分けについては、繰り返し指導することによって、言語材料の確実な定着を図るようにする。

□通し番号(19)

◇評価規準

文構造についての知識がある。(言語についての知識)

◇県の状況

新規の問題。設定通過率60.0に対して、平均が36.0と低い通過率となった。

◇指導上の留意事項

語と語のつながりに注意することを含め、正しい語順や語法を用いて文を構成する力を高める指導を繰り返す。特に、三人称単数現在形については必須の文法事項であることから、日常の学習活動の中で言語活動と関連付けて指導することで、定着を図るようにする。また、修飾関係などの特徴を日本語との違いに留意して指導することも有効である。

■第2学年 国語

□通し番号(12)

◇評価規準

語句の文脈上の意味を正しく理解している。

◇県の状況

新聞である。設定通過率が70.0に対して、平均が19.2であり、語句の文脈上の意味を正しく捉える指導が十分なされていない状況である。

◇指導上の留意事項

語句の指導については、辞書的な意味を踏まえるとともに、思考力や想像力を働かせ文脈上の微妙な意味の違いなどを具体的にとらえさせることが大切である。特に、「C読むこと」のAとの関連を図って指導することが有効である。

□通し番号(18)

◇評価規準

文章の展開に即して内容をとらえている。

◇県の状況

H22高校入試問題の類似問題。正答率は、46.1%である。今年度の結果は、設定通過率が75.0に対して、平均が30.4である。

◇指導上の留意事項

文学的文章においては、登場人物の言葉や行動の意味を、文章中の言葉や話の展開との関わりをとらえながら、条件に応じて表現する学習が大切である。

■第2学年 社会

□通し番号(9)

◇評価規準

世界の国々の地域的特色を示した複数の数値を関連付けて、適切に読み取っている。

◇県の状況

H21学習状況調査の類似問題。H21の平均通過率は70.7。選択肢の内容を大幅に変更した今年度の結果は設定通過率60.0に対して、平均が22.1と低迷した。

◇指導上の留意点

調査結果を整理し報告書にまとめたり発表したりする活動を重視する。その中で、統計資料から必要な情報を読み取ったり、単位、実数と割合の違いなどに留意しながら概数による計算の結果を比較したりするなど、情報を活用する作業的な学習活動を取り入れる。

□通し番号(15)

◇評価規準

参勤交代に関する文献資料を活用するとともに、考察した結果を適切に説明している。

◇県の状況

H20・H21学習状況調査の類似問題。H20の平均通過率は47.7、H21は52.2といずれも設定通過率に達していない。今年度の結果は設定通過率65.0に対して、平均が65.5である。

◇指導上の留意点

参勤交代にかかる費用や藩財政への影響についての考察から、大名統制の厳しさをとらえさせたい。新学習指導要領では、歴史的事象の意味・意義などを自分の言葉で表現させることが重視されていることから、調べたり考えたり意見交換したりして分かったことを条件に応じて文章化する活動を様々な場面で取り入れたい。

■第2学年 数学

□通し番号(5)

◇評価規準

反比例の関係をもとに、対応する値を求めることができる。

◇県の状況

H21学習状況調査(6の類似問題(県平均は42.1)。今年度の結果は、設定通過率90.0に対して、平均が59.1である。H19全国調査A10(1)の類似問題(国平均は46.2、県平均は57.3)。

◇指導上の留意事項

反比例を表で観察するとき、対応する x 、 y の値の積が一定になることなどの特徴について、式による表現やグラフによる表現と相互に関連付けて理解できるようにすることを重視する。

□通し番号(18)

◇評価規準

具体的な事象における一次関数の関係を式で表すことができる。

◇県の状況

H22全国調査A11(3)の類似問題(国平均は22.9、県平均は27.7)。今年度の結果は設定通過率60.0に対して、平均が33.3である。

◇指導上の留意事項

問題場面を図に表したり、数量の関係を表に表したりすることを通して、変化や対応の様子を調べて式に表す活動を取り入れることを重視する。

■第2学年 理科

□通し番号(9)

◇評価規準

地層の重なり方の規則性を見だし、地層の広がり方を推定できる。

◇県の状況

H17・18・19の学習状況調査の類似問題。過去の通過率はH17が82.9、H18が63.7、H19が平均69.0であった。今年度の結果は設定通過率60.0に対して、通過率の平均が28.3である。

◇指導上の留意事項

地層の広がり方の規則性については、離れた地点の地層を対比したり、ボーリング資料を活用して柱状図を並べて対比したりすることにより見いださせることが大切である。地下の様子を推測させる際には、各地点の標高を考慮し、共通する層に着目させるなど、ポイントを示して考えさせることが必要である。また、野外観察など、直接自然に触れ合う活動を取り入れたい。

□通し番号(14)

◇評価規準

磁石とコイルを用いた電磁誘導の実験結果から、電流の向きを推定できる。

◇県の状況

H19・20・21の学習状況調査の類似問題。過去の通過率はH19が50.9、H20が59.9、H21が平均52.6であった。今年度の結果は設定通過率65.0に対して、通過率の平均が38.3である。

◇指導上の留意事項

磁石またはコイルを動かす向きや磁極を変えることにより、誘導電流の向きが変わることを実験を通して見いださせることが大切である。その際、磁界の変化がコイルの上面の変化だけではなく、コイルの下面の変化についても考えさせるなど、立体として捉えさせるよう指導を工夫したい。

■第2学年 英語

□通し番号(6)

◇評価規準

質問や依頼などに対して、適切に応じる

ことができる。(適切な聞き取り)

◇県の状況

第1学年との共通問題。国の平均60.7、H21(1年時)の県の平均45.6と低迷したため引き続き出題した。今年度は平均49.0であり、やや上昇した。

◇指導上の留意事項

英語を聞いて質問や依頼などの意図を正しく理解し、適切に応じることが大事である。相手の問いかけに対して場面や状況によっては、相手の意向をくんで実際の動作に移したりするなど、場面の設定を工夫しながら幅広く言語活動を行わせたい。

□通し番号(15)

◇評価規準

文法に従って正しく書くことができる。(正確な筆記)

◇県の状況

H21学習状況調査の類似問題。平均27.3と大幅に低迷したため引き続き出題した。今年度は平均39.0であり、上昇したものの、設定通過率には達していない。

◇指導上の留意事項

対話の流れ、展開を理解し、答えの内容からその質問文を考える力を身に付けさせる必要がある。また、動詞の時制や様々な疑問詞で始まる疑問文などについて繰り返し指導し、定着させたい。